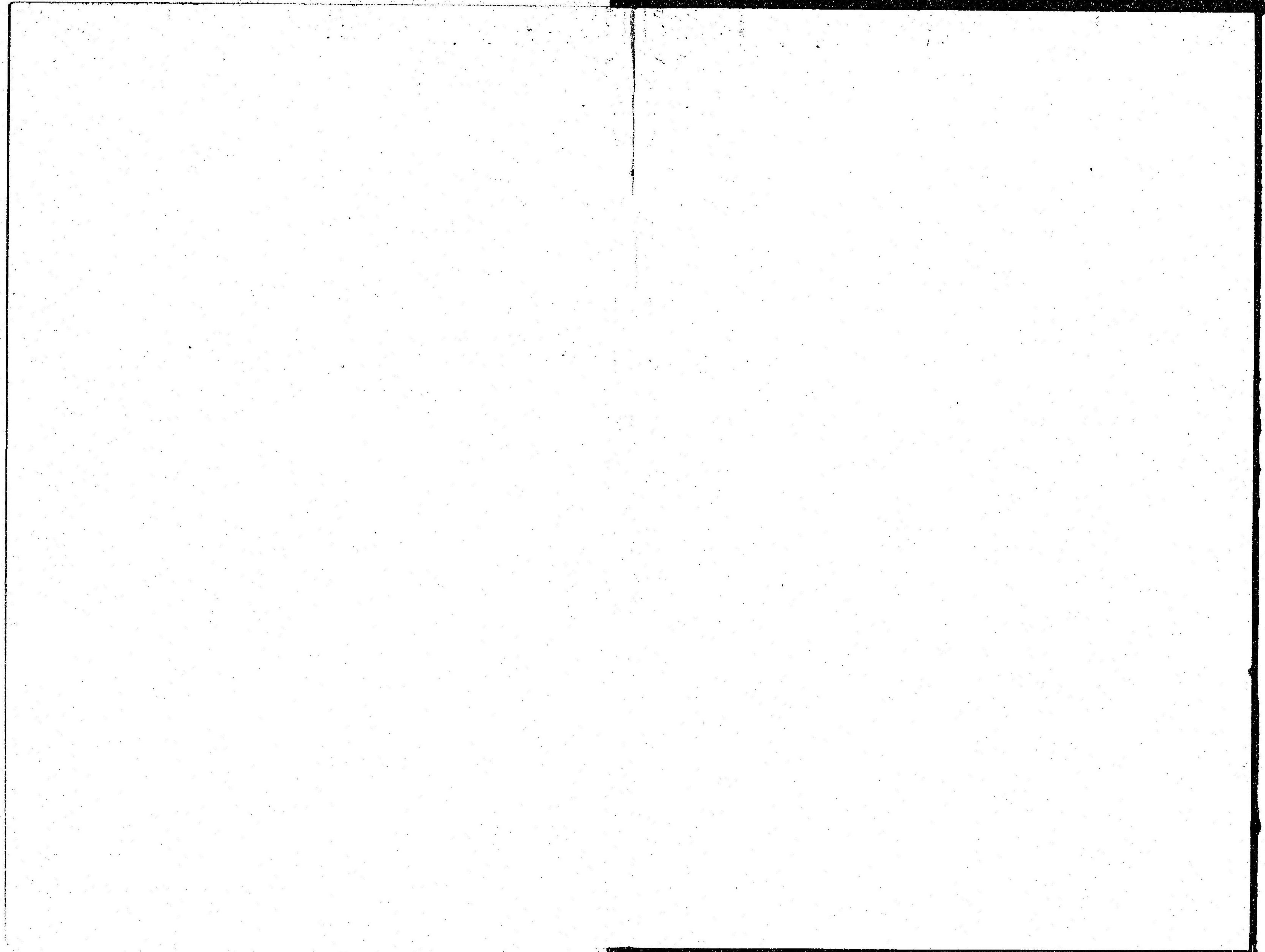


327

241

稻作要綱

茨城縣立農事試驗場



307-241



本卷ノ稻作改良ノ資ニ供センガ爲メ從來當場ニ於テ施行セル水稻試験成績中確實ト認メタルモ

明治四十三年三月

茨城縣立農事試驗場

明治
43. 5. 11
内交

目次

一	品種ノ撰擇
二	採種
三	撰種
四	浸種
五	播種
六	苗代
七	本田ノ整理
八	肥料
九	挿秧
十	灌水
十一	除草及中耕
十二	收穫
十三	俵裝
十四	水害及旱害ニ堪ユル品種
十五	病虫害驅除豫防

稻作要綱

(技手 安資農夫主査)

品種ノ撰擇

本縣ニ栽培セラルル水稲ノ品種甚ダ雜多ニシテ産米ノ品質一定セザルガ爲メ
 販賣上ノ不利尠カラザルヲ以テ良好ナル品質ノ撰擇ニ注意シテ品種ノ雜駁ヲ
 避ケルハ稻作改良上緊要ナルコトナリトス今當場ニ於テ數年試驗ノ結果良好
 ト認ムル品種及其成績ヲ舉メ左ノ如シ

○早稻

品 種 名	成 熟 期	一 反 歩 玄 米 收 量	摘 要
早 稻 高 津	九 月 十 八 日	一 石 九 斗 八 合	九 ヶ 年 平 均
信 州 金 子	九 月 十 八 日	二 石 二 升 八 合	九 ヶ 年 平 均
石 場 早 稻	九 月 十 八 日	二 石 四 升 五 合	四 ヶ 年 平 均
大 場 早 稻	九 月 十 八 日	二 石 三 升 五 合	五 ヶ 年 平 均

品名	種名	成熱期	一反歩玄米收量	摘	要
京早	稻	九月二十五日	二石二斗一升六合		四ヶ年平均
上總	コボレ	九月十四日	二石一斗一升一合		七ヶ年平均
玉	錦	十月十二日	二石一斗七合		八ヶ年平均
荒	木	十月十三日	一石八斗八升二合		五ヶ年平均
都	錦	十月十六日	一石九斗四升六合		八ヶ年平均
常	豊	十月二日	二石二斗四升四合		五ヶ年平均
勿	來	十月三日	一石九斗九升六合		五ヶ年平均
波	穂	十月十八日	二石二斗五升		四ヶ年平均
關	取	十月十八日	二石二升五合		五ヶ年平均
國	華	十月二十二日	二石七升二合		五ヶ年平均
品	種	名	成熱期	一反歩玄米收量	摘
太郎	兵衛	錦	九月十七日	一石七斗五升八合	四ヶ年平均
金	砂	細	十月四日	一石九斗五升七合	四ヶ年平均

白 關 取 細 十月四日 二石一升四合 四ヶ年平均
 細 十月十八日 二石一斗九合 四ヶ年平均

以上各種ノ特性ヲ略記スレバ左ノ如シ

- 一、早稻高津 草丈長シト雖モ莖稍強ク無芒中粒ニシテ品質良好ナリ
- 一、信州金子 草丈短ク莖稍強ク無芒中粒ニシテ品質良好ナリ
- 一、石 白 草丈短ク莖強ク無芒中粒ニシテ品質良好ナリ
- 一、大場早稻 草丈短ク莖強ク無芒稍大粒ニシテ品質稍良好ナリ
- 一、京早稻 草丈長シト雖モ莖強ク無芒中粒ニシテ品質稍良好ナリ
- 一、上總コボシ 草丈短カキニモ係ハラヌ莖弱ク無芒中粒ニシテ品質京早稻ニ劣レリ
- 一、玉 錦 草丈長ク莖強ク長芒ヲ有シ中粒ニシテ品質良好ナリ
- 一、荒 木 草丈長シト雖モ莖稍強ク長芒ヲ有シ中粒ニシテ品質最モ良好

- 一、都賀錦 草丈長シト雖モ莖強ク短芒ヲ有シ中粒ニシテ品質良好ナリ
- 一、常 豐 草丈中位ニ居リ莖稍強ク短芒中粒ニシテ品質稍良好ナリ
- 一、勿 來 草丈短ク莖強ク長芒ヲ有シ中粒ニシテ品質良好ナリ
- 一、波山穂 草丈短ク莖強ク無芒中粒ニシテ品質最モ良好ナリ
- 一、關 取 草丈短ク莖強ク無芒中粒ニシテ品質最モ良好ナリ
- 一、國 華 草丈長シト雖モ莖稍強ク短芒ヲ有シ中粒ニシテ品質良好ナリ
- 一、太郎兵衛糯 草丈短カシト雖トモ莖弱ク無芒中粒ニシテ品質最モ良好ナリ
- 一、金砂糯 草丈長ク莖稍強ク無芒中粒トシテ品質良好ナリ
- 一、白 糯 性状恰モ金砂糯ニ類似シ品質良好ナリ
- 一、關取糯 草丈中位ニシテ莖強ク無芒小粒ナレモ品質良好ナリ

二、採 種

多額ノ收量ヲ得ンニハ善良ナル種子ヲ撰擇セザルベカラズ善良ナル種子トハ完全ニ成熟シ品種固有ノ形質ヲ有シ能ク充實セルモノヲ云フ故ニカ、ル種子ヲ得ンニハ成熟ニ際シ品種ノ特性ヲ具ヘ健全ニ生育セル長大ナル親穂ヲ撰ミ置キ黃熟ノ時ニ至リ莖ト共ニ刈リ取り種子ニ供スベシ今試験成績ヲ示セバ左ノ如シ(一反歩當リ玄米收量)

拔穂ヲ行ヒタル種子

二石 三升

拔穂ヲ行ハザル種子

一石九斗二升五合

種子ニ供スベキモノハ其成熟ノ度ニ注意シ穂既ニ黃變スルニ至ラバ莖葉ニ多少綠色ヲ帶ブルモ猶豫ナク收穫スベシ若シ此期ヲ失スルトキハ其後ル、ニ從ヒ種子トシテ收量ヲ減ズルヲ左ノ試験成績ニ依リ明ナリ(一反歩當玄米收量)

穂ノ黃變セルヲ收穫アル種子 一石九斗三升一合

穗及穂首ノ黄變セル片收穫セル種子 一石八斗一合

葉莖ノ黄變セル片收穫セル種子 一石七斗八升一合

以上ノ方法ニ依リテ得タル種子ト雖モ悉ク良好ナリトハ謂ヒ難シ其不良ナルモノヲ除去スルニハ鹽水撰ヲ行フベシ

本縣ニハ赤米ノ生ズル土地少ナカラズ之ヲ販賣スル片ハ價格ニ影響スルモノナレバ稻ノ成熟頃雨天ノ際カ又ハ刈取後穂ヲ水ニ浸シ赤米ノ粃外ニ顯ハル、ヲ見テ之ヲ除去シ年々此法ヲ行ヒ種子ニ供シ赤米ノ全滅ヲ計ルベシ

三、選種

選種法ノ最モ簡易ニシテ利益多キモノハ鹽水選法ニシテ先ツ四斗桶ノ如キモノニ水ヲ入レ之ニ所要ノ食鹽ヲ投ジ能ク攪拌シテ食鹽ノ全ク溶解スルヲ待テ凡四升位ツ、種子ヲ筥ニ入レ鹽水中ニ浸シ能ク攪拌シ凡三割位浮ヒ上カルヲ度トシ手又ハ金網ニテ之ヲ掬ヒ取り沈ミタル種子ハ清水ニテ洗ヒ鹽分ヲ除ク

ヲ可トス而シテ鹽水撰ヲ行フ鹽水ノ濃度ハ左ノ標準ニ據レバ大過ナカルベシ
糯及芒ヲ有スル粳 水一斗ニ付食鹽二升乃至三升ノ割合 (比重一、〇八乃至

一、一〇)

芒ヲ有セザル粳 水一斗ニ付食鹽三升乃至四升ノ割合 (比重一、一〇乃至一、一三)

又食鹽ノ代リニ苦鹽汁ヲ用ユル時ハ大約左ノ割合ニテ可ナルベシ尙撰種ニ用ヒタル鹽水ハ之ヲ貯藏シテ使用スルヲ便トス

糯及芒ヲ有スル粳 普通ノ苦鹽汁四分ニ水ヲ六分混シタルモノ

芒ヲ有セザル粳 全上苦鹽汁下等分ニ混ジタルモノ

鹽水撰ヲ行ヒタル種子ハ唐箕撰ヲ行ヒタル種子ニ比シ收量ヲ増加シタルコト試験成績ニヨリテ見ルモ明ナリ即チ左ノ如シ (一反步當立米收量)

唐箕撰 一石七斗九升

鹽水撰

一石九斗七升一合

四、浸種

縣下ニ於ケル浸漬ノ日數ハ地方ニヨリ差異アレトモ短カキハ十日長キハ二十日以上ニ及ビ甚シキハ浸漬後俵ノ儘數日間日光ニ乾カシ發芽セシメタルモノヲ播下スルモノアリ然レトモ浸種ヲ行フノ目的ハ豫メ種子ヲシテ其發芽ニ要スル水分ヲ吸收セシメ苗代ニ播下スルヤ成ルベク早ク發芽生長セシムルニアルカ故ニ其日數ノ如キモ種子ノ發芽ニ要スル水分ヲ吸收スル日數ヲ以テ適度ナリトス此日數ハ水ノ温度ニヨリ異ナリト雖モ四月下旬乃至五月上旬ニアリテハ七日内外ニテ充分ナリ之以上永ク浸スハ却テ不利益ナルト知ルベシ今浸種ノ長短ニヨリ收量ニ及ボス試驗ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ(二反步當立米收量)

七日間浸漬

二石九斗五升二合

十五日間浸漬

二石八斗三升八合

二十日間浸漬

二石八斗三升三合

種子ヲ浸漬スルニ二法アリ一ハ俵ニ入レテ流水或ハ池水中ニ浸漬スルモノニシテ一ハ桶ニ水ヲ汲入レ此水ニ浸漬スルモノ之ナリ流水池水ハ清澄ニシテ温度ノ變化セサル場所ヲ撰ミ桶浸ハ時々水ヲ汲換ヘ發芽ヲ害セザル様注意ヲ要ス

五、播種

種子ヲ播下スベキ時期ハ其地方ノ氣候及移植期ノ早晚ニヨリ多少參酌ヲ加ヘザルベカラズ今當場ノ試驗成績ニヨリ適期ヲ示セバ左ノ如シ

早稻ハ四月十五六日頃ヨリ同二十五六日頃マデ

中稻ハ四月二十七八日頃ヨリ五月五六日頃マデ

又苗代ニ播下スベキ種子ノ量ハ種類、土質、氣候等ニヨリ異ナレトモ苗代一步ニ付精撰セル種子ナレバ小粒種三合大粒種四合ニテ充分ナリトス本縣ニハ一

步ニ付五六合ノ厚播ニ失スルモノアリスノ如キ苗ハ細長ク軟弱ニ生育シ移植後生著悪ク充分ナル收穫ヲ得ルコト能ハザルベシ今参考ノ爲メ播種量ヲ異ニセル試験成績ヲ示セバ次ノ如シ(一反歩當立米收量)

一步ニ付一合播ノ苗	二石三斗一升八合	一步ニ付五合播ノ苗	二石一斗三升七合
全	二石二斗三升二合	全	六合播ノ苗
全	三合播ノ苗	全	八合播ノ苗
全	四合播ノ苗	全	一升播ノ苗
	二石二斗三升六合		二石四升二合

一合播ノ苗ハ成績良好ナルモ苗代ノ面積ヲ要スルコト多ク且ツ螟虫ノ被害多キニヨリ實際上一步ニ付三四合ヲ適當トス

更ニ又本田一反歩ニ對シ幾何ノ種子ヲ要スルカハ移植ノ本數及株數ニヨリ異ナリト雖モ早稻五升中稻四升ニテ充分ナリ即チ本田一反歩ニ要スル苗代ハ凡十歩乃至十五歩以内トス

六、苗代

苗代ハ稻收穫後能ク排水ヲ行ヒ耕起シテ冬季中霜雪ニ曝シ置キ三月下旬乃至四月上中旬ノ頃鋤返シテ能ク土塊ヲ破碎シ水ヲ灌キ更ニ能ク耕耙シテ土塊ヲ細カニナシ幅四尺以内ノ短冊形ニ區劃シ其間二一尺ノ通路ヲ設ケ肥料ヲ施シ地面ヲ平準シ一二日其儘ニ放置シ地面ノ稍ヤ固マルヲ待チテ水ヲ灌ギ清澄シタル後播種ヲ行フベシ

土壤膨軟ニシテ種子土中ニ沈ミ或ハ種子ノ動搖スル恐アルモノハ播種ノ一二日前細砂ヲ一步ニ付一二升散布シ置クベシ
從來本縣ニ於テハ苗代ニ青草、乾草、新鮮厩肥等ヲ使用スルモノ多キモ是等ハ元來遲効性ノモノナレバ施用セザルヲ可トス斯ノ如キ分解不良ノ肥料ヲ用ユルハ苗ノ生育不良ニシテ移植ノ頃ニ至リ漸ク肥効顯レ爲メニ苗柔軟トナリ強剛ナル苗ヲ得難シ又肥料ノ用量多キニ過グルトキハ一見生育佳良ナルカ如

キモ其實柔軟ニシテ移植後植傷ミ多ク生育亦良好ナラズ尙苗代ハ通常元肥ノ
 ミニテ可成追肥ヲナサザルヲ可トス若シ己ムヲ得ズ追肥スベキ場合ニハ用量
 ニ注意シ極メテ速効ノモノヲ撰ムベシ今參考ノ爲メ試驗ノ成績ヲ左ニ舉グ
 (一反歩ニ要スル苗代肥料)

肥料名	用量	代價	價
人糞尿	五貫目		一反歩當玄米收量
過磷酸石灰	二百三十目	三十一錢四厘	
大豆粕	八百四十目		二石二斗九升九合
藥灰	一貫三百六十目		
人糞尿	十貫目		
青糞	三十貫目	一圓三十三錢四厘	二石六升四合
鰾糞	一貫八百目		
人糞尿	十貫目		
中熟既肥	三十貫目	一圓三十五錢二厘	一石九斗七升二合

大豆	一貫八百目		
鰾糞	九百目		
人糞尿	十貫目		
青糞	三十貫目		
大豆	二貫四百目	九十六錢九厘	二石四升
過磷酸石灰	五百目		

(過磷酸石灰ハ苗代、本田共ニ總テ普通過磷酸石灰ヲ施用シタリ)

苗代ハ播種ノ翌日ヨリ出來得ル限り雨天曇天若クハ寒冷ナル日ヲ除キテ毎日
 朝九時頃ヨリ水ヲ排出シ種子ヲ空氣、日光ニ觸レシメ午前三四時頃ニ至リ再
 ビ水ヲ灌クベシ此ノ如ク水ノ灌排ヲ行フトキハ四五日ニシテ發芽スベシト雖
 モ苗ノ丈一寸位ニ達スル迄ハ灌排ニ注意シ其後ハナルベク淺水トナシ苗ノ強
 健ナル生育ヲ遂ゲシムベシ然レモ土地ニヨリ排水佳良ニシテ日中水ヲ排出ス
 ルハ種子乾燥ニ過ギ或ハ土地ノ龜裂スル恐レアル所又ハ排水不良ナル所ニ

アリテハ適宜參酌ヲ要ス

苗既ニ四五寸ニ生長セルハ稗雜草ノ除去及ビ螟虫卵ノ摘除浮塵子ノ驅除ヲナスベシ斯レヲ播種後凡ソ四十四五日ヲ經レバ一時其生長ヲ止メ葉色少シク淡黃色ヲ帶アルニ至ルベシ之ヲ移植ノ適期トス

從來ノ習慣ニテ苗ノ丈長ク其色濃綠ナルモノヲ良好ナリトスルモノアレヒ苗丈徒ニ長キハ不良ナリ七八寸内外ヲ以テ適度トス

七、本田ノ整理

本田ハ稻收穫後能ク水ヲ排出シ耕起シテ勞力ノ許ス限り麥、油菜、豌豆、蠶豆等ヲ二毛作トシテ栽培シ又二百十日頃ヨリ水ヲ排出シテ紫雲英、苜蓿ヲ播下シ排水不良ナル濕田ニテモナルベク水ヲ排スル方法ヲ行ヒ農閑ニ耕起シテ幅四五尺ノ高畦ヲ作り春彼岸頃豌豆、蠶豆、等ヲ栽培スベシ
二毛作ヲ行ヒタル本田ノ整地ハ其收穫後鋤キ起シ土塊ヲ碎キ水ヲ灌キテ肥料

ヲ施シ能ク耙キ均ラシ插秧前再ビ耙キ均ラヌベシ又紫雲英ヲ栽培セル土地ニアリテハ開花中之ヲ刈取り耕起シテ鋤込ミ水ヲ注ギテ腐熟セシムベシ又二毛作或ハ紫雲英ヲ栽培セズシテ休閑ニ附シタル田ハ三月下旬乃至四月上旬耕起シ灌水其他ノ手續ハ總テ前ト同シ

八、肥料

肥料ハ土質ノ如何ニヨリテ差異アルモノナレバ土質ニ應ジ肥料ノ撰擇及其配合法ヲ斟酌セザルベカラズ一例ヲ舉グレバ排水佳良ナル砂質壤土又ハ壤土ニアリテハ新鮮ナル厩肥、稿糞糞等ニテモ能ク腐熟シテ肥効多キモ排水不良ナル地或ハ山間ニテ冷水湧出スルガ如キ地ニアリテハ是等ノ肥料ハ分解遅クシテ肥効少シ又肥料三成分中窒素ハ何レノ土地ニ於テモ之レヲ施サレバ充分ノ收量ヲ得難キモ磷酸及加里ハ特ニ之ヲ施サレバ充分ナル所アルヲ以テ其土壤ノ性質ニヨリ磷酸及加里ノ量ヲ少ナクシテ可ナルベキモ本縣下ノ土壤ハ特ニ磷酸

ヲ配合セザレバ充分ナル收量ヲ得ザル所多シ依テ縣下ノ土壤三種ニ就キ稻作ニ要スル三成分量ヲ掲ゲテ肥料用量及其配合ノ參考ニ供ス

土 質 性	一 反 歩 ニ 要 ス ル 三 要 素 適 量		
	窒 素	磷 酸	加 量
砂 質 壤 土	二貫五百目	一貫目	一貫目内外
壤 土	二貫五百目	一貫五百目	一貫目内外
腐 植 質 埴 土	二貫五百目	二貫目	一貫目内外

此ノ如ク土質ニヨリ肥料ノ配合ヲ異ニスベキモノナレバ各地土質ノ異ナル所ハ前記三種ヲ標準トシ多少參酌ヲ加ヘサルベカラス而シテ肥料ノ種類モ亦土質ノ如何ニヨリテ撰擇スヘキハ勿論尙紫雲英其他二毛作跡地ニ於テハ特ニ用量ト配合ニ注意ヲ要ス今是等撰擇ノ參考ニ供センガ爲メ當場ニ於テ行ヒタル肥料經濟ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ

但シ標準肥料ハ一反歩ニ付堆肥二百貫目大豆粕十七貫目過磷酸石灰六貫目

ニシテ其他ハ基本肥料ヲ三百貫目宛トシ之レニ加フルニ大豆粕十二貫目過磷酸石灰六貫目ヲ施用セリ

肥 料 名

明治三十九年ヨリ四十二年ニ至ル四ヶ年平均玄米收量

標 準 肥 料	二石一斗九升五合
新 鮮 堆 肥	二石一斗一升二合
中 熟 堆 肥	二石一斗五合
完 熟 堆 肥	一石九斗二升二合
苜 蓿	一石九斗九升四合
紫 雲 英	二石三斗六合
青 刈 大 豆	二石八升七合
青 刈 蠶 豆	二石三斗一升九合
青 刈 豌 豆	二石四升
山 野 青 草	二石七升四合
楮 桐 若 葉	二石九升一合
秋 ノ 落 葉	一石九斗三升

藁 (水 稻) 一石七斗五升七合
 沼 藻 一石八斗九升九合
 蘆 沙(四 輪) 一石八斗八升七合

苜蓿糞沙ノ如キハ窒素ノ量多キニ過キ徒ニ莖葉ノミ繁茂シタル結果成熟期遅
 レ青米糞等多ク收量少ナキ傾向アリ

從來農家ノ使用スル販賣肥料中ニハ比較的高價ナルモノアリ依テ各種ノ販賣
 肥料同價ニ配合シ各堆肥二百貫宛ヲ加用シタル試験成績ヲ舉ゲテ參考ニ供ス

肥料ノ種類及用量(一反步當)

四十一年及四十二年ニテ平均米收量

大 豆 粕	十七貫目	二石八升二合
過 磷 酸 石 灰	六貫目	
大 豆	十五貫目	一石九斗五合
過 磷 酸 石 灰	五貫目	
人 糞 尿	二百四貫目	一石九斗六升五合
過 磷 酸 石 灰	五貫四百二十目	

大 豆 粕	十貫六百廿四匁	二石一斗五升二合
硫 酸 ア ン モ ニ ア	二貫五百廿三匁	
過 磷 酸 石 灰	六貫九百十三匁	
硫 酸 ア ン モ ニ ア	六貫六百目	二石七升五合
過 磷 酸 石 灰	八貫八百目	
鯧 粕 (元 俵)	八貫三百目	一石九斗七升二合
過 磷 酸 石 灰	四貫二十三匁	
鯧 ノ 粕 (直シ俵)	九貫目	一石九斗七升四合
過 磷 酸 石 灰	四貫五百九十匁	
干 鯧	十貫八百匁	二石一升四合
過 磷 酸 石 灰	三貫五百匁	
干 鯧	十二貫三百七十六匁	一石九斗八升一合
過 磷 酸 石 灰	二貫八百目	

又肥料ヲ施用スルノ時期ハ堆肥、厩肥、生草、乾草、木ノ葉等ノ如キ分解遅キモ
 ノハ成ルベク移植前本田耕鋤ノ際ニ施用シ其他ノ肥料モ排水不良ナル地或ハ

冷水湧出スル地ハ總テ元肥トシテ移植當時施シ追肥ヲ施サ、ルチ可トス然シ
 斥排水佳良ナル砂質土、礫質土ニアリテハ一時ニ施スルハ肥料ノ流出スル恐
 アルヲ以テ分施スルノ要アリト雖モ七月下旬迄ニ施用シ終ラザルベカラズ近
 來完全肥料、調和肥料、配合肥料等ヲ使用スルモノアレモ比較的高價ナルニヨ
 リ是等ノ肥料十種類ニ就キ大豆粕、過燐酸石灰、硫酸アムモニアノ三種ヲ配合
 シ同價又ハ同成分ニテ試験ヲ行ヒタルニ完全肥料類ハ何レモ減収ノ成績ヲ見
 タリ則チ左ノ如シ

完全肥料効力比較試験成績

(甲區ハ完全肥料、乙區ハ甲區ト同價ニ配合シタルモノ、丙區ハ甲區ト同成分ニ配合シタルモノ)

試驗區名	肥料名	用量	代價	二年平均收量
甲	堆肥	二〇〇、〇〇〇	六、七六三	一、七六三
	牛印完全肥料	一四、八八四	四、八八四	一、七六三

第一		第二	
乙	丙	甲	乙
堆肥	堆肥	堆肥	堆肥
大豆粕	大豆粕	大豆粕	大豆粕
硫酸アムモニア	硫酸アムモニア	硫酸アムモニア	硫酸アムモニア
過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰	過燐酸石灰
二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
一〇、六二四	六、九一三	一〇、一〇六	一〇、六七〇
二、五二三	六、三七七	一、八八〇	一、八八〇
六、七六三	四、八六五	六、七六三	六、七六三
一、九五二	一、八四四	一、七九五	一、八六七

第三										
丙			乙			甲		丙		
過磷酸石灰	硫酸アムモニア	大豆粕	過磷酸石灰	硫酸アムモニア	大豆粕	日星印完全肥料一號	堆肥	過磷酸石灰	硫酸アムモニア	大豆粕
三、九五三	二、六四五	七、五五七	四、五〇〇	三、四三〇	九、八〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	八、六四〇	一、七三五	六、二〇〇
		五、七三四			六、七六三		六、七六三			五、五〇四
		一、七九二			一、八七一		一、八一八			一、七二五

第四										
乙		甲		丙			乙		甲	
大豆粕	堆肥	大黒天印化學肥料二號	堆肥	過磷酸石灰	硫酸アムモニア	大豆粕	過磷酸石灰	硫酸アムモニア	大豆粕	日比野完全肥料
一、二〇〇	二〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一、五五三	三、四七〇	四、二五七	六、六〇〇	四、七〇〇	五、七二四	九、九二三
						五、一〇八			六、七六三	六、七六三
						一、九二二			二、一四一	一、九九〇

種類名 播種月日 插秧月日

明治三十四年ヨリ三十九年ニ至ル六ヶ年平均玄米收量

常州早稻 四月二十日播

五月二十四日	二石一斗三合
六月四日	二石八升三合
六月十四日	一石九斗三升六合
六月二十四日	一石九斗四升五合
六月四日	二石三升四合
六月十四日	一石八斗一升二合
六月二十四日	一石九斗三合
七月四日	一石六斗九升三合

玉 錦 四月三十日播

右ノ成績ニ鑑ミ挿秧ノ適期ヲ示セバ左ノ如シ

早稻ハ播種ヨリ四十日乃至四十五日後 五月下旬乃至六月上旬

中稻ハ播種ヨリ四十五日乃至五十日後 六月上旬乃至中旬

本田ニ移植スベキ一步ノ株數ハ土地ノ肥瘠及氣候ノ寒暖ニ依リ差異アルモノニシテ概シテ排水良好ナル肥沃土地ハ株數ヲ少ナクシ之ニ反シ排水不良ナル

土地或ハ氣候寒冷ナル地方ニアリテハ株數ヲ多クスベシト雖モ疎密其度ヲ失セザル様注意スベシ又一株ノ苗數ハ土地ノ如何ノミナラズ稻ノ分蘗力ノ強弱ニヨリ斟酌セザルベカラズ

此ノ如ク一步ノ株數一株ノ苗數ハ氣候土質及品種等ニヨリテ加減スベキハ勿論ナリト雖モ概シテ一株ノ苗數ヲ多クシテ一步ノ株數ヲ少ナクセンヨリハ寧ロ一株ノ苗數ヲ少ナクシ一步ノ株數ヲ多クスルニ利アリトス今當場ノ試験成績ニ據リ一步ノ株數及一株ノ苗數等ノ標準ヲ示セバ大略左ノ如クナルベシ

排水ノ最モ良好ナル土地

早稻 一株五六本	一步五十六株
中稻 一株四五本	一步四十九株

稍ヤ排水ノ良キ土地

早稻 一株六七本	一步六十四株
中稻 一株五六本	一步五十六株

排水不良ナル土地

早稻 一株七八本	一步七十二株
中稻 一株六七本	一步六十四株

最も不良ナル瘠地ニアリテハ一步ニ八九十株挿秧スルヲ良トス
苗ヲ移植スルキハ一寸以内ニ挿入スベシ若シ深植スルキハ株張伸長共ニ不良
ニシテ収量ヲ減ズルモノナリ又移植法ノ亂雜ナルモノハ日光ノ透射空氣ノ流
通ヲ妨ゲ規則正シク移植シタルモノニ比シ生育不良ニシテ収量ヲ減ジタルコ
ト左ノ試験成績ニ據リ明カナリ(一反歩當玄米収量)

亂雜植 二石二斗九合

正條植 二石三斗四升一合

正條植ハ収量ヲ増進スルノミナラズ除草ニ際シ太一車ノ如キ器械ヲ使用シ勞
力ヲ節シ得ル利益アリ

十、灌 水

稻ノ生育期中深ク灌水スルトキハ莖稈軟弱トナリテ倒伏シ易キノミナラズ收
量モ亦多少減少スヌヲ以テ常ニ灌水ニ注意シ一寸以内ニ止ムルヲ可トス灌水

ノ深淺ニヨリ収量ニ及ボス影響ニ就キ試験ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ(一反歩
當玄米収量)

灌水ノ深サ一寸	二石五斗七升八合
全	二石三斗七升二合
全	二石一斗一升一合
全	二石一升一合

此ノ如ク灌水深キニ從ヒ収量ヲ減ズルモノナレバ務メテ淺ク灌水スベシ
又灌水シテ水ヲ田面ニ溜溜セシムルヨリモ除草毎ニ時々排水シテ土壤ヲ直接
日光空氣ニ觸レシムルヲ宜シトス斯クスルトキハ稻ノ生育良好ニシテ収量モ
亦多シトス而シテ稻既ニ開花ヲ終リ穂首ノ稍々傾垂スルニ至ラバ全ク灌水ヲ
排除スベシ若シ然ラズテシ收穫期マデ水灌ヲ繼續スルトキハ成熟晩ル、ノミ
ナラズ或ハ晚穂ヲ生シ収量ヲ減シ品質ヲ劣惡ナラシムルコトアリ灌水ノ時期

ト收量ノ關係ニ就キ試驗ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ(一反歩當玄米收量)

收穫マデ常ニ灌水ス

二石二升五合

開花後排水ス

二石七升七合

移植後十日毎ニ排水シ開花後全ク排水ス 二石二斗五升九合

十一、除草及中耕

除草ハ本田ニ生ズル雜草及稗等ヲ除去スルノ外田土ヲ軟ゲ温熱及ビ空氣ヲ土中ニ導キ地温ヲ昇騰セシメ肥料ノ分解作用ヲ促シ以テ根ノ發育ヲ充分ナラシムルガ爲メニ行フモノニシテ本縣下ニ於テハ蟹爪太一車等ヲ使用スルモノ少ナキノミナラズ一回除草ニテ止ムルモノアリ除草ハ回数ノ少キヨリ多キニ利アルモノナレバ一番除草ノ際ハ蟹爪、太一車ノ如キモノヲ以テ土壤ヲ反轉シ根ノ發育ヲ助クル様務ムベシ今試驗成績ニヨリ除草ノ回数ニヨリテ收量ニ及ボス影響ヲ示セバ左ノ如シ(一反歩當玄米收量)

除草ヲ行ハズ

一石四斗五升三合

除草 二回

一石七斗六合

全 三回

一石七斗二升一合

全 四回

一石七斗七升五合

除草ニ就テ注意スベキ中耕除草ハ成ルベク晴天ヲ撰ミ日中極ク暖カナル時ニ行ヒ降雨冷涼ノ日ヲ避クベシ又除草遲キニ過グルトキハ反テ害アルガ故ニ挿秧後二週間前後ヨリ穂孕前ノ間ニ於テスベシ尙取り残りタル稗ハ出穂ヲ待テ實ノ脱落セザル様拔取ルベシ

十二、收

獲

早刈ハ青米ヲ混シ米質脆弱トナリテ貯藏シ難ク又遲刈ハ糠層ヲ増スノミナラズ色澤ヲ損シ收量ヲ減ズルノ婁アリ稻刈取ノ適期ハ穂ノ全部黃色トナリ穂梗モ亦黄變スルニ至レルハ好時期ナルコト左ノ試驗成績ニ徴シテ明カナリ(一

反歩當玄米收量

早刈 籾ノ黄變セル時	一石七斗五升九合
中刈 穂首ノ黄變セル時	一石九斗六升一合
晚刈 稈ノ黄變セル時	一石六升三升九合

刈取タル稻ハ之ヲ稻架ニ掛ケ充分乾燥セシメタル後扱落籾ハ再ビ席上ニテ一日間乾燥シタル後扱摺ヲ行フベシ而シテ玄米ハ唐箕ニテ扱穀ヲ簸別ケ萬石通シ或ハ篩ニテ扱穀ヲ剥脱セザルモノ或ハ成熟不充分ナル青米其他碎米土砂等ヲ除去シ其調製ニ充分注意ヲ加フベシ此調製ノ良否ハ之ヲ販賣スルニ當リ大ニ其價格ニ影響ヲ及ボスモノニシテ調製不良ナルモノハ如何ニ品質良好ナルモ其價格ノ低キヲ免レズ現ニ本縣ヨリ東京へ輸出スル米ハ品質ノ不良ナルニアラズシテ調製ノ不良ナル爲メ價格低廉ナルノミナラズ米穀取引所ノ受渡米ニ用ヒラレザルモノアリト云フ如何ニ栽培法ニ改良ヲ加フルモ調製ニ注意スル所ナクンバ改良ノ爲メ得ル所ノ利益ハ大ニ殺滅セラレ其効果少ナカルベシ

シ

十三、 俵 装

玄米ノ俵装ハ唯ニ其取扱及輸送上便否アルノミナラズ粗造ナルモノハ玄米漏出ノ爲メニ意外ノ損失ヲ蒙リ從テ價格ニ影響シ此損失ハ生産者ノ損失ニ歸スルモノナレバ俵装ハ注意シテ之ヲ爲サル可ラズ

然レドモ本縣ニ於テハ容量俵装共ニ未ダ一定ノ標準ナキニヨリ東京廻米問屋組合ニ於テ示シタル俵装ノ標準ヲ參考ノ爲メ左ニ掲ゲ他日本縣ニテ指定セラレタル場合ニハ之ニ準據ス

- 一、一俵ノ枳入ハ四斗ヲ適度トス
- 一、中俵ハ乾燥シタル藁ヲ用ヒ配置能ク四ヶ所編ミ胴繩三ヶ所乃至五ヶ所結ビ棧俵ヲ用ヒ其形體小ニ失セザルヲ要ス(大要一尺大)小口繩ハ七ツ目通シ堅固ニ菊形カ、リ(總量八百目以内)トス

一、外俵ハ配置能ク四ヶ所編ミ胴繩五ヶ所結ビ小口カ、リハ目通シ十一以上ニシテ茶カ、リ縦繩ハ太繩ニテ二筋四方掛トシ胴繩ノ兩端及ビ中ニカラゲ小口ニ於テ結ビ止メ充分ニ引キ緊ムルヲ要ス(總量七百目以内)

十四、水害及早害ニ堪ユル品種

粳七十六種糯十六種ヲ水量多過ノ地ニ栽培シ何レノ品種カ最モ良好ナル生育ヲ遂ゲ水害ニ堪ユルヤヲ試ムル爲メ漸次水量ヲ壹尺五寸迄深クシ明治三十八年ヨリ四十一年ニ至ル四ヶ年間試験ヲ行ヒタル結果成績良好ト認ムルモノ左ノ如シ(一反歩當立米收量)

茶	早	稻	二石二升九合
瑞		穂	二石一斗四升四合
音	撰		一石九斗六升一合
常	豊		一石九斗二升五合
早	高	津	一石八斗八升一合

江	戸	早	稻	一石八斗七升三合
都		賀	錦	一石八斗八升九合
勿		來		一石八斗四升五合
大	場	早	稻	一石八斗六升七合
金		砂	糯	一石七斗六升

粳三十五種ヲ全ク灌水セザル旱田ニ栽培シ何レガ良好ナル生育ヲ遂ゲ旱魃ニ堪ユルヤヲ試ムル爲メ明治三十九年ヨリ四十一年ニ至ル三ヶ年間試験ヲ行ヒタル結果成績良好ト認ムルモノ左ノ如シ(一反歩當立米收量)

江	戸	早	稻	一石三斗八升七合
上	總	コ	ボレ	一石三斗一升四合
藤		早	稻	一石三斗九合
鳥		早	稻	一石三斗二升七合
源		殿		一石三斗七升一合
玉		錦		一石三斗四升

十五、病蟲害驅除豫防

縣下ノ稻作病蟲害ノ主ナルモノ及其驅除豫防法ノ大要ヲ述レハ左ノ如シ

一、螟 虫 (方言 ズイムシ、スムシ シンムン)

螟虫ニハ數種アルモ縣下ニ大害アルハニ化螟虫ナリ一年ニ回發生シ藁又ハ刈株中ニ蟄伏シテ越年シタル幼虫翌春ニ至リテ蛹ニ化シ五月下旬ヨリ六月中旬ニ亘リ蛾トナリ苗代ニ飛來リテ苗葉ニ産卵シ之レヨリ孵化セシ幼虫ハ直ニ稻莖ニ喰入り所謂心枯ヲ生セシム而シテ八月中下旬莖中ニ蛹化シ八月下旬ヨリ九月上旬頃蛾トナリ再ヒ稻葉ニ産卵ス此卵孵化シテ幼虫出ヅレバ又前ノ如ク稻莖中ニ喰入り九月中下旬頃多ク枯穂ヲ生ジ斯クシテ第二回ノ幼虫藁又ハ刈株中ニ潛ニ年ヲ越ヘ翌春蛹ニ化シ次デ蛾トナル

欠

MISSING

テ發見シ難シ幼虫又ハ成虫ノ態ニテ紫雲英其他雜草中ニ越年シ翌春ニ至リ苗代ニ出テ産卵蕃殖ス夏期濕氣多ク温度高ク所謂蒸熱ノ天候相續クトキ其繁殖殊ニ速ナルモノナリ

驅除豫防法

- (一) 苗代本田共(本田ニテハ抽穗前)ニ成蟲ハ捕蟲網ニテ捕獲スベシ
- (二) 苗代ニテ注油驅除ヲ行ハントスルトキハ苗代ノ畦畔ハ豫メ高ク作り置キ驅除ヲ行フニ先テ畦畔及其附近ノ雜草ヲ刈り取り然ルニ苗代ニ水ヲ張リテ稻葉ヲ没スルニ至ラシメ十歩ニ付五勺以内ノ石油ヲ注キ切藁ヲ撒布シ油ノ水面ニ擴散セザルヲ待テ蟲ヲ拂ヒ落シタル後此藁ヲ苗代ノ一隅ニ掃キ寄セ筑本圃ニ藁ヲ掬ヒ取り蟲ト共ニ此藁ヲ深ク土中ニ埋没スベシ此方法ハ朝露ノ未タ乾カサル間又ハ細雨ノ際ニ行フトキハ成虫ハ飛散セザルヲ以テ最モ有効ナリ

テ發見シ難シ幼虫又ハ成虫ノ態ニテ紫雲英其他雜草中ニ越年シ翌春ニ至リ苗代ニ出テ産卵蕃殖ス夏期濕氣多ク温度高ク所謂蒸熱ノ天候相續クトキ其繁殖殊ニ速ナルモノナリ

驅除豫防法

- (一) 苗代本田共(本田ニテハ抽穗前)ニ成蟲ハ捕蟲網ニテ捕獲スベシ
- (二) 苗代ニテ注油驅除ヲ行ハントスルトキハ苗代ノ畦畔ハ豫メ高ク作り置き驅除ヲ行フニ先テ畦畔及其附近ノ雜草ヲ刈り取り然ルニ苗代ニ水ヲ張リテ稻葉ヲ没スルニ至ラシメ十歩ニ付五勺以内ノ石油ヲ注キ切藁ヲ撒布シ油ノ水面ニ擴散セザルヲ待テ蟲ヲ拂ヒ落シタル後此藁ヲ苗代ノ一隅ニ掃キ寄セ笹木圍ニ藁ヲ掬ヒ取り蟲ト共ニ此藁ヲ深ク土中ニ埋没スヘシ此方法ハ朝露ノ未タ乾カサル間又ハ細雨ノ際ニ行フトキハ成蟲ハ飛散セサルヲ以テ最モ有効ナリ

稻苗伸長シテ水ヲ張り能ハサル時ハ水ヲ一寸位張り苗葉ニ觸レサル様前量ノ石油ヲ滴下シ捕蟲網ヲ以テ拂ヒ落シ又捕殺スヘシ總テ注油驅除ヲ行ヒタル後ハ清水ヲ注キ油ヲ流シ出スヘシ

(三) 插秧前本田周圍ノ雜草ハ一部ヲ殘シ他ハ悉ク刈リ取り殘リタル草中ニ蟲ヲ追ヒ込ミテ鑿殺スヘシ

(四) 本田ニテハ水ヲ張り一反歩ニ付八合乃至一升五合(浮塵子ノ種類ニヨリテハ石油ノ量ヲ増加スルコト必要ナル場合アリ例ヘハ綠色浮塵子ノ如シ然レモ其用量三升ヲ超過セシムヘカラス)ノ石油ヲ株間ニ注下シ水面ニ擴散シタル後蟲ヲ拂ヒ落シ或ハ稻株ニ油水ヲ注キ懸ケ蟲ヲ鑿殺スヘシ成虫多キトキハ苗代ト同ジク朝露ノ未タ乾カサル間又ハ細雨ノ時ニ於テ施行スルヲ要ス

(五) 用水缺乏シテ注油驅除ヲ行フコト能ハサルトキハ五十倍許ノ石油乳劑ヲ

散布スルカ又ハ捕蟲網或ハ楯付船形、捕蟲器ヲ用ヒ或ハ幕様ノ布片ヲ以テ一所ニ追ヒ集メ蟲ヲ捕殺スヘシ但被害甚シキ場合ニハ燃料ヲ加ヒ稻ヲ燒却スヘシ

(六) 畦畔及附近ノ草間ハ冬期浮塵子ノ潜伏所ナルガ故ニ溫暖無風ノ日ヲ撰ミ之ヲ燒却スヘシ

三、葉捲虫 (方言 ットムシ)

一年二回ノ發生ヲナス六七月頃其成虫(はなせゝり蝶)稻田ニ飛來リテ葉面ニ一粒ヅ、産卵シ其孵化シタル幼虫ハ葉ヲ折り曲ケテ其内ニ潜ミ夜間出テ、葉ヲ喰害シ生長スルニ從ヒ數葉ヲ集メテ綴リ合セ蛹化シ九月頃再ヒ蝶ニ化シ稻又ハ笹葉等ニ産卵シ幼虫ノ形ニテ越年ス而シテ翌年六月成虫トナルモノナリ

驅除豫防法

(一) 鐵製又ハ竹製ノ櫛ニ布袋ヲ附シタルモノニテ稻葉ヲ梳ツリ其中ニ潜伏セ

ル幼虫ヲ捕殺スヘシ

- (一) 板片ヲ以テ綴リタル葉ノ外部ヨリ虫ヲ壓殺スヘシ
- (二) 冬季ハ仔蟲ノマ、ニテ越年シ田圃ニ近キ山林ノ禾本科(主ニ笹ノ類)ヲ食トスルモノナルヲ以テ之ヲ刈リ取り焼却スベシ

四、穀 象

倉庫内ニ發生シ成虫幼虫共ニ米麥等ノ穀類ヲ喰害ス褐色ノ小甲虫ニシテ六月頃穀粒ニ産卵シ孵化シタル幼虫ハ穀粒内ニアリテ其内容ヲ喰シ後蛹化ス年ニ回發生ヲナスモ其經過甚ダ不規則ナリ成虫態ニテ越冬ス

驅除豫防法

- (一) 此虫乾燥ノ不充分ナル穀類ヲ害スルコト多キヲ以テ成ル可ク乾燥ヲ良クスルハ豫防上最モ有効ナリ又倉庫内ヲ常ニ乾燥冷涼且ツ清潔ニ保テ壁床天井等ノ間隙ニハ時々石灰水ヲ注クヲ可トス

(二) 倉庫ヲ嚴重ニ密閉シニ硫化炭素ノ燻蒸ヲ行ヘバ驅除シ得ベシ然レモ此瓦

斯ハ共ニ劇毒ヲ有シ危険ナルモノナレバ使用上特ニ注意ヲ要ス成ルベク

技術者ニ依托スルヲ安全トス

五、稻熱病 (方言 ナイヤケ、クセ)

稻病害中最モ恐ルベキモノニシテ肥沃ナル土地多量ノ窒素ヲ施シタル場合、冷濕ナル天候相續クハ發生シ易シ苗代ニテハ先ヅ軟弱ナル苗ニ發生シ漸次他ニ蔓延シ苗ハ黃褐色ニ變ジテ枯死ス本田ニアリテハ初メ葉面ニ數多不正形ノ褐色斑紋ヲ生ジ次第ニ擴大シテ終ニ全部ニ及ボシ枯稿セシム又山間樹林等ノ日陰地冷水ノ湧出スル場合ニアリテ稻ノ生育不良ナルモノニ濕温ノ天候相續クトキ此病ヲ起スヲ常トス出穂期ニ發生スレバ穂梗又ハ穂ノ一部ニ病徴ヲ現ハシ其以上ノ部分ハ枯死スルガ故ニ白穂トナリテ稔實セズ陸稻ニアリテハ莖ノ關節ニ發病シ爲メニ穂ノ充實セザルコトアリ

豫 防 法

四十六

- (一) 種子ハ鹽水撰ヲ行ヒタルモノヲ用ヒ一步三四合ノ割合ニ適期ニ播下スヘシ
- (二) 苗代肥料ハ配合及用量ニ注意シ苗ノ移植期ニ及ヒテ肥不足ノ狀顯ハル、程度ニ止メ餘分ノ肥料ヲ施スヘカラス
- (三) 本田ノ肥料中綠肥、大豆、大豆粕、魚粕、人糞尿、硫酸アムモニアノ如キ窒素質肥料ハ過剩ニ施スベカラス必ス土性ニ應ジテ適宜磷酸質肥料及草木灰ヲ加用シテ稻ノ稈出來セサル様肥料ノ配合ニ注意スベシ
- (四) 市街宅地近傍ニ下水ノ流入スル稻ニハ特ニ窒素質肥料ノ施用ヲ減シテ過磷酸石灰及草木灰ヲ充分ニ施スヘシ
- (五) 氣候冷濕ニシテ稻熟病發生ノ虞アルトキニハ除草ノ回数ヲ増シ又蟹爪打ヲ行ヒテ地温ノ昇騰ヲ計ルヘシ

- (六) 山間堤外山麓等ノ稻田ニシテ冷水ノ流入スル處ニハ畔ヲ設ケテ之ヲ他ニ放流スヘシ若シ其冷水ヲ灌溉スルニアラサレハ他ニ用水ナキ場合ニハ一旦之ヲ水溜ニ導キ或ハ溝ヲ設ケテ流域ヲ延長シ水ノ温マリタル後ニ稻田中ニ流入スルノ工夫ヲナスヘシ堀抜井ノ湧水ヲ灌溉スル場合ニモ亦然リ
- (七) 畦畔路傍ノ雜草ヲ刈除シニ通風透光ヲ宜シカラシムヘシ
- (八) 稻田ハ可成排水ニシテ毛作ヲナスベシ

四十七

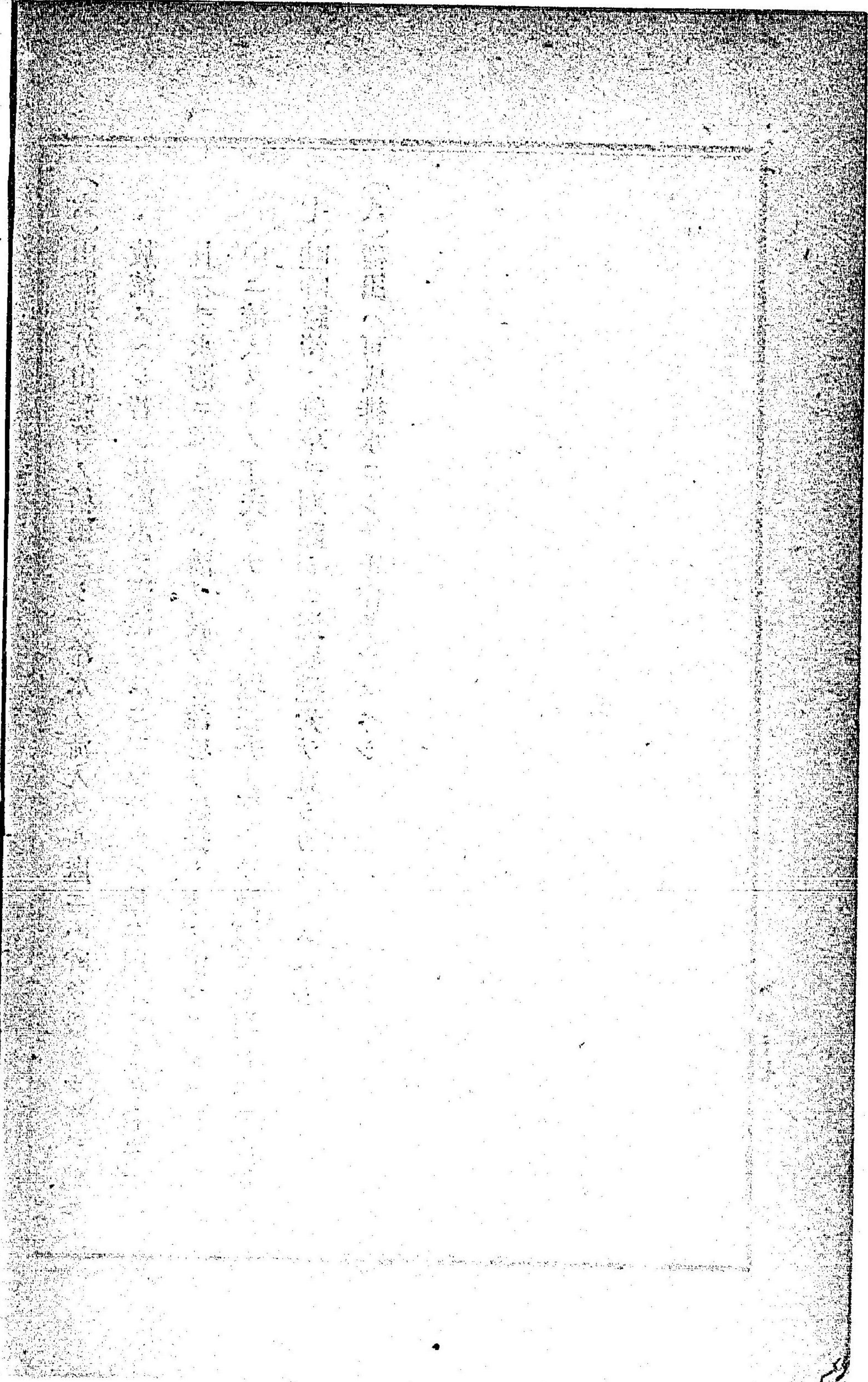


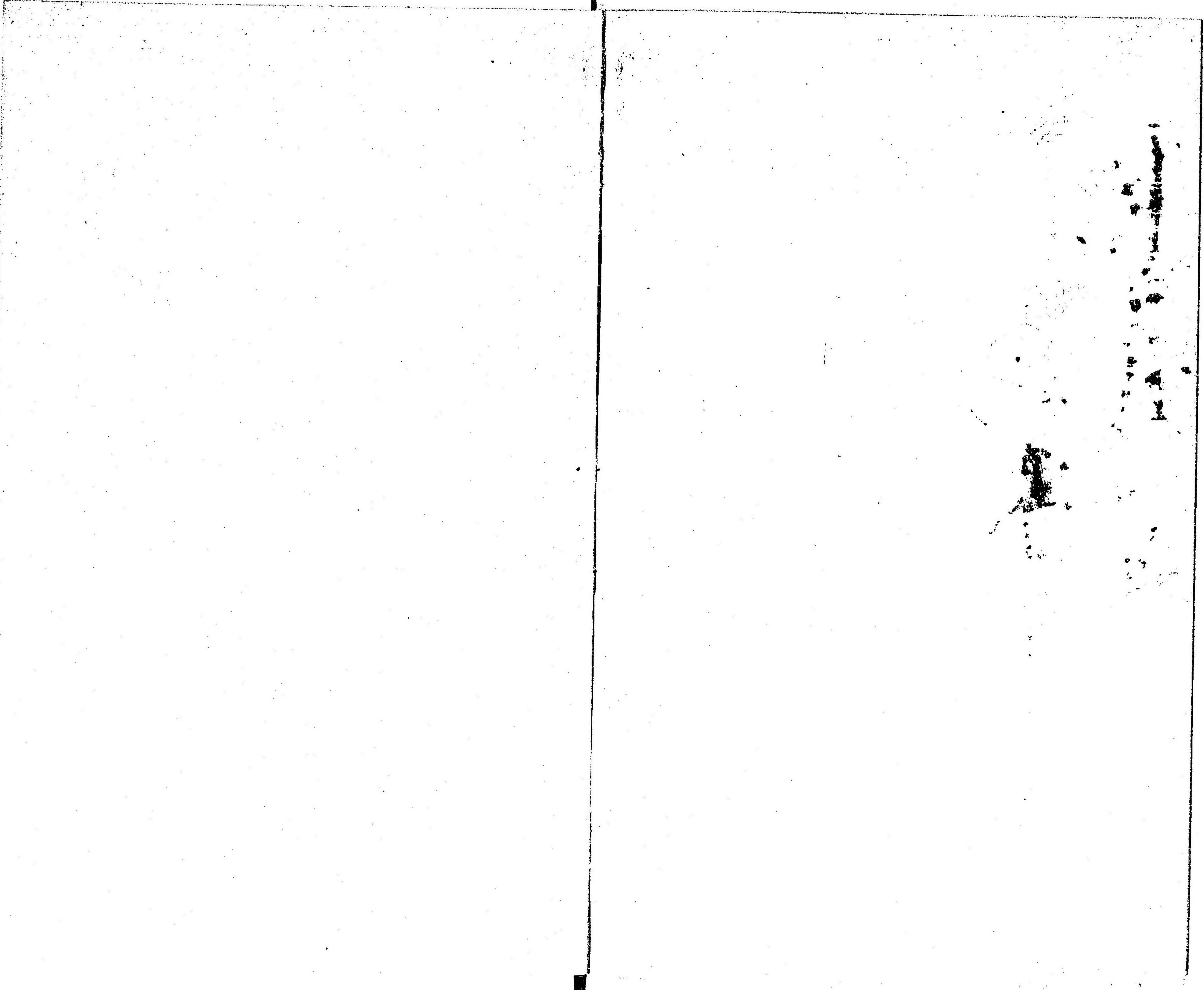
明治四十三年五月一日印刷
明治四十三年五月一日發行

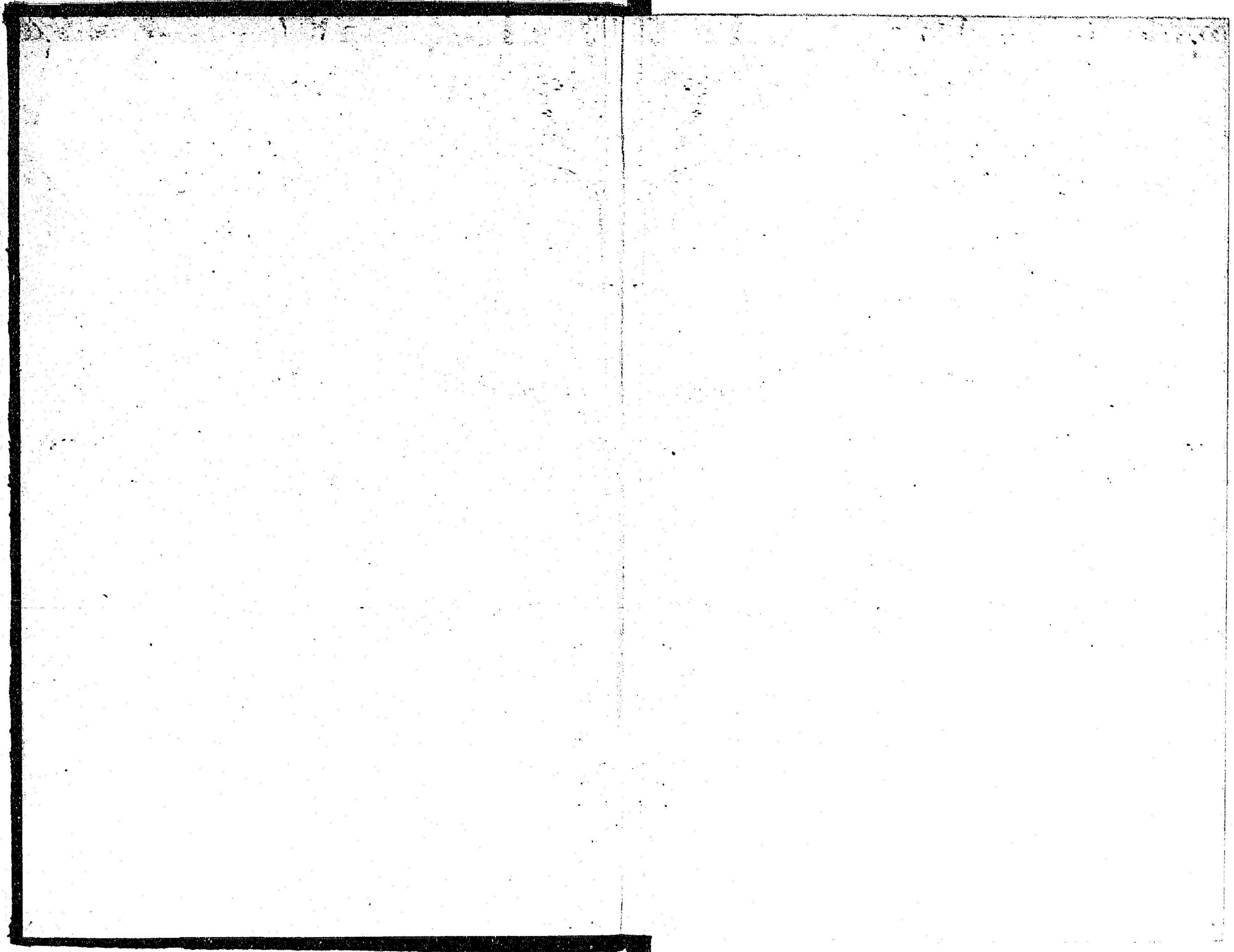
茨城縣立農事試驗場

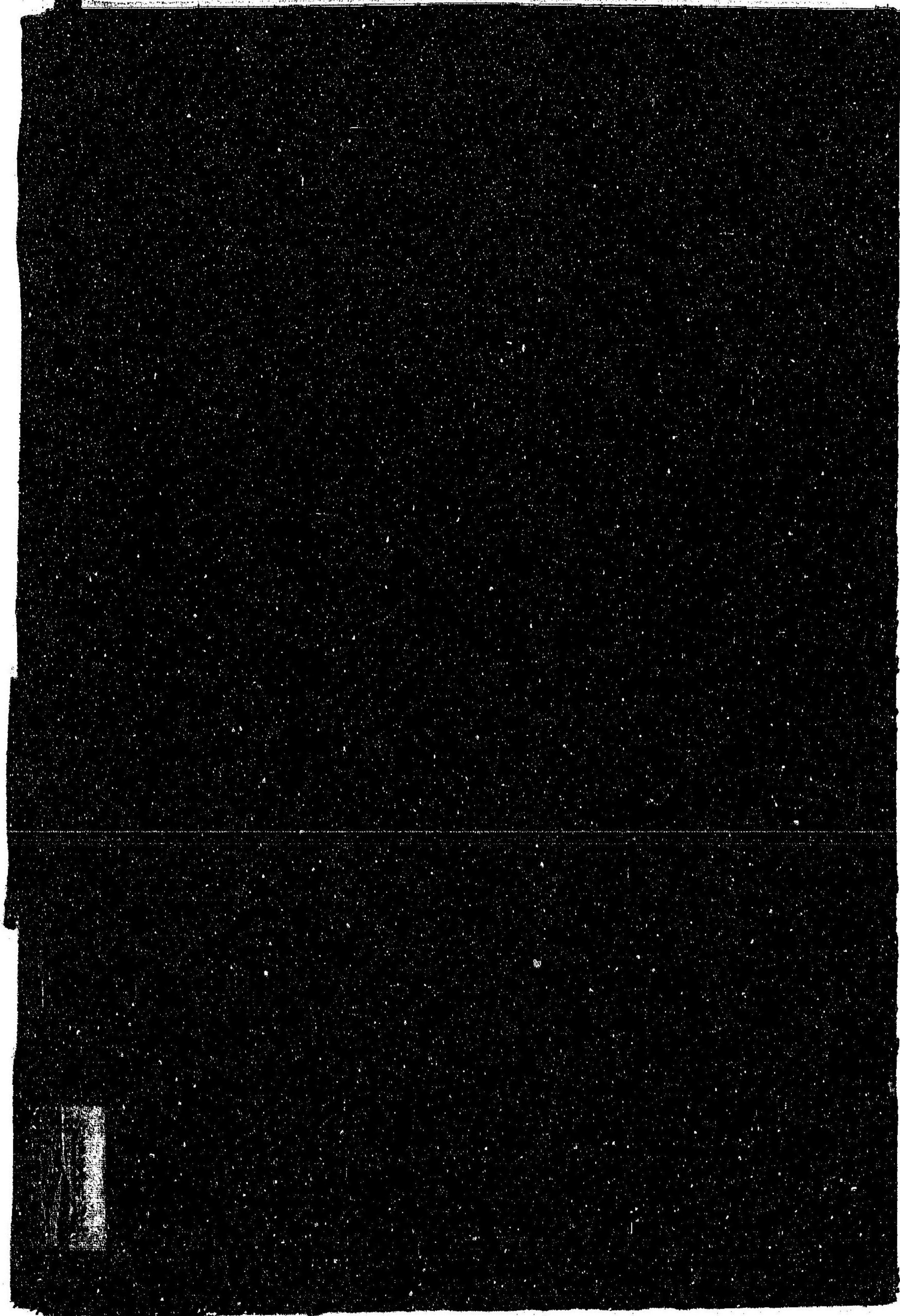
印刷者 貫井定太郎
東京市淺草區南元町壹番地

印刷所 好文堂活版所
東京市淺草區南元町壹番地
電話下谷一六二三番









327

241

稻作要綱

茨城縣立農事試驗場

061485-000-6

327-241

稻作要綱

茨城縣立農事試驗場

M43

CCA-0110

